



令和7年5月20日



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -0520 本校職員会議資料④-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上 松 武

■やっぱり、『一生懸命はかっこいい!!』

日々の学習活動に一生懸命に取り組む子どもたちの姿は、やっぱり、かっこいい」です。

□小・中学部運動会～5/10 土に実施～

○小学部下学年・上学年の運動会

- ・今年度の小学部の運動会は、日々の体育での学習成果を児童一人一人が発揮することを第一に考え、次の2点から運動会を計画し実施しました。
 - ①普段上学年と下学年に分かれて実施している体育の授業形態をそのまま運動会当日の「下学年の部」と「上学年の部」としたこと
 - ②学年別で実施している学習活動を運動会種目としたこと
- ・さらに、各学年の中で前回号のとおり、年長者が自分のできることを、下級生のために行動することを大切にしていました。運動会当日「いいな!」と思った姿です。

(下学年の部)

- ーリレーの種目では二人一組で、互いにスピードを合わせるようにしながらお菓子を運んでいた。
- ー普段から同じ順番で競技を実施してきたことで、見通しを持てて参加していた。
- ー競技中の仲間を応援するといった普段の授業では見られなかった姿があった(当該児童が主体的に考えて実行した姿だと考えます)。

(上学年の部)

- ー下学年の部を応援したり聴こえてくる曲に合わせて一緒に踊ったりしていた。
- ー大玉転がしリレーでは、普段の学習どおりに、ペアのスピードに気を配りながら大玉を転がしていた。
- ーかっこいいところを見せようといつも以上に気合が入っていた。

- ・運動会での学びが学校生活にどんな変化が現れるのか、注目です。

○中学部の運動会

- ・当日までの運動会練習において、競技に参加できなかったり練習自体に加われなかったりした生徒が数名いましたが、先生方は決して無理矢理参加させようとはしていませんでした。当該生徒一人一人と毎回対話を繰り返し、当該生徒たちが決めた参加の仕方を尊重していました。
- ・そのような対応に安心したのか、あるいは見通しが持てたのか、当日は自分が所属する赤白のチームの中で仲間と一緒に応援したり、競技に参加したりしていました。
- ・年度初めに「見えにくいことにこそ、目を向ける」という話をしました。まさに当該生徒たちの見えにくい気持ちを、先生方が「こうなのか、ああなのか」と推察して、その時々でのベストな対応をしてきた成果が、運動会への参加に結び付いたと考えています。
- ・中学生は周りと比較してダメな自分を意識してしまう時期だと私は考えています。だからこそ、自分自身が今できる最大限のことを教師との間で言語化して納得してやり切ることが大切だと思います。そして、一つ一つの「やり切った感」が自分への自信につ

ながっていると思いたいです。

- ・明日からの学校生活においても、同じことが繰り返されるかもしれませんが、でも、運動会での対応のように、どの生徒も私たちから見えにくいことに対して支援し、少しずつ自信を抱けるように、生徒一人一人と向き合っていきましょう。



□いよいよ現場実習～高等部 5/26 から 6/13 までの3週間～

- ・5月も半ばを過ぎると、高等部は現場実習へ臨む生徒たちと先生たちの緊張感で、ピリっとした空気感が漂います。
- ・普段の作業学習や進路学習「わくわくワーク」を通して、「なぜ、実習を行うのか」「どのように実習に取り組むのか」「実習から何を学ぶのか」などを学習しています。
- ・5月22日（木）に「春のわくわくワーク全体壮行会」があります。そこで、私は次のことを生徒たちにお話しようと考えています。



①何事にも一生懸命に取り組む

②毎日決めた生活リズムで実習をやり切る

③実習を通して、「自分のよいところ」や「自分で自分の好きなところ」を見つける

- ・①に関して、一生懸命な姿は他者からの信頼を得ます。他者から信頼される体験をしてほしい。
- ・②に関して、ある事業所の社長は「毎日出勤することが一番大事。来るか来ないか分からないのでは、仕事は任せられない」とはっきり話していました。そのために、毎日決めた時刻に起きて、決めた時刻に出かけ、決めた時刻に寝る。これをぜひやり通してほしい。
- ・③に関して、実習期間中、うまくいかないことに必ず出くわします。「できない自分」「ダメな自分」を意識してしまいます。しかし、できていることもきっとあります。そこにこそ目を向けて、「できている自分」「やれている自分」をたくさん見つけてほしい。
- ・私は、上記の3つがこれからの人生を支える、大きな力になると考えます。この3つのことを意識しながら、「高特の高校生は一生懸命で、一緒に仕事をしていて、こっちも元気が出る」などと言われるような活躍を期待しています。

■皆さんは、高田特別支援学校がここにある存在意義をどう考えていますか

- ・本校がこの地域にある意義は何でしょうか。
- ・教育計画にある建学の精神を受け継ぎながらも、今の時代にここにこの学校がある存在意義をどう考えていますか。
- ・私は、次のように考えています。

誰もが分け隔てられることなく、自分のできることを生かして人の役に立ちながら、自分らしく人生を送ることができる「まち」にこの地域がなっていくことを牽引するための学校である。

- ・なぜ、このようなことを皆さんに問うのか。それは、本校に勤務することを通して、一人一人が何を目指して日々の業務に励むのかを明確にしてほしいからです。ほんの少しでもいいので、そのような気概をもって、毎日児童生徒と向き合ってください。そう思うから

です。

- ・実は、10年ぶりに本校に再び勤務することになって、ますます先生方が多忙になっていることに危機感を感じています。時代の教育観や価値観が当時と大きく変わってきていて、学校業務が膨れ上がっていると思っています。例えば、登下校の交通誘導や登校時刻前の預かりなど。
- ・この学校の存在意義を考えることは、真に私たちがやらなければならないことに眼を向けることになると思います。「これまでそうやってきたけど、それって本当に必要なことなのか」と疑ってみませんか。そして、今一度、「この学校の役割は何か」「私たち職員は何を優先するべきなのか」「教育活動を通して、この学校は何を目指すのか」を、改めて考えてみませんか。
- ・私は、膨れ上がっている業務整理を進め、先生方全員がやりがいを感じて児童生徒と向き合う職場環境にしていきます。ぜひ、一緒に改善していきましょう。

■45 時間以上の超過勤務実態～4月の状況から～

- ・4月の45時間以上の超過勤務者は19名、全体の17.2%でした（昨年度の4月は21名、全体の24.7%）。
- ・この数字には表れないけれども、私は多くの先生方が「多忙感」を感じていると思っています。
- ・上記の「皆さんは、高田特別支援学校がここにある存在意義をどう考えていますか」に記載したとおり、業務が膨れ上がっていると考えます。
- ・そこで、先生方にお願ひです。「私たち職員は何を優先するべきなのか」と合わせて、「私たち職員がしなくともよい業務は何か。そう思う理由は何か」を考えてほしい。その際、以下の理由を参考に、今までやっていた業務や学習活動、各種行事の実施を考え直してください。

【しなくともいいと考える理由の例】

△真に私たちの本来業務ではない。

△この教育活動や学校・学部行事などは初期の目的を達している。

△同じような学習活動があるため一つにまとめる。

- ・ぜひ、これから実施される「学校評価アンケート」に建設的な業務整理の声を寄せてください。先生方全員と学校経営を進めていきます。よろしくお願いします。

■当校における『小1の壁』の現状

～「登校時刻前の受入れに関する調査」の結果から～

- ・『小1の壁』という言葉をご存じですか。
- ・子どもが保育園に通っていたときには早朝保育や延長保育などによってできていた仕事と子育ての両立が、小学校に通い始めた途端に難しくなることをいいます。小学校は保育園のときよりも預かってもらえる時間が短いなどが原因です。
※朝日新聞デジタル版 2024.7.9「小1の壁とは？原因や問題点、乗り越える方法を具体例とあわせて紹介」から引用）。
- ・本校においても、昨年度同様な事情から登校時刻前の受入れの要望が保護者の方からあり、3学期から有志の職員で対応したと聞いています。今年度の実施も期待されており、受入れ希望と保護者の協力体制の把握のため、全家庭を対象に調査を先日行いました。

その結果は以下のとおりです。

- ・この結果を踏まえて、安心安全が確保でき、持続可能な実施の方法を PTA 役員の方々と
はもちろん、関係機関と探っていくことにしています。具体的な実施方法などが明らか
になりましたらお伝えします。

令和7年度「登校時刻前の受入れに関する調査」結果																	
1 受入れ希望及びボランティア協力について																令和7年5月15日現在	
学部	人数	回答数	希望の有無								ボランティアの可否						意見など
			有							無	可					否	
			毎日	週3	週2,3	週2	週1	その他			週2,3	週1	月2	その他			
小学部	58	58	9	5	0	2	0	0	2	49	2	0	0	2	0	56	12件
中学部	46	41	10	4	1	2	1	1	1	31	3	1	0	1	1	36	6件
高等部	53	44	2	2	0	0	0	0	0	42	1	0	1	0	0	42	5件
合計	157	143	21	11	1	4	1	1	3	122	6	1	1	3	1	134	
2 主な意見等																	
学部	意見等																
小学部	・登校時刻前の受入れはぜひ実施してほしいです。しかし、職員有志同様にボランティアも持続可能ではありませんし、安全面の懸念もあると思います。誰かが仕事に行くために誰かが無償で働くことに違和感もあります。なので、有償での実施を検討してもよいのではないかと思います。個別にファミリーサポートを利用するより、まとめて学校を使って対応してくれるような形になればいいなと思います。保護者のためにご検討くださり、ありがとうございます。小																
	・AM8:00～だと職場までギリギリなので、利用がむずかしいですが、ありがたいと思っています。制度が確立したら、週1くらいで利用できたら、うれしいなと思っています。年の途中から利用できますか。ボランティアではなく、ファミサポさん等に報酬を支払い、行ってもらうと良いのではと思います。小																
	・職員の方の負担が増えた分を数値化して、まずは県に人員増員を求めるでいいと思います。保護者のボランティアでは、何かあった時に問題になるので、外部の専門的な機関にお願いするべきではないかと思います。その場合費用は登校時刻前の受入れを利用の方が支払うべきかと思っています。																
中学部	・冬期間に8:00～だと受け入れボラはかなり早く自宅を出ないかなと思います。よく耳にする有償ボラというものもどんなものかわかりませんが、受け入れる側と希望する側両方から考えたときにいいのではないかと考えます。中																
	・ボランティアは協力できます。基本的には学校へ送った後仕事にいくので、うちの子も一緒に大丈夫なら協力できます。中																
高等部	・時間外の生徒への対応は先生方の善意に頼るべきではなく、また、学校の負担が増えるべきではないと考えます。しかし、児童生徒の登校時刻のため就業に制限がかかってしまう親が一定数存在することも事実なので、県や市など行政の協力が得られる方法を、時間がかかるかもしれませんが探していただけたいらよ																
	・児童クラブの朝版のようなものがあればいいと思いますので、どこにどのような要望を出せばいいのか検討してPTAで声を上げていく。実現するまでは今あるサービス（ファミリーサポート）を利用するのが妥当であり、有志の職員のボランティア精神に頼るのは無理があると思います。高																
	・学校から保護者勤務先まで車で15分ほど（冬期はもっとかかる）の距離があり、8:30の始業（職場）には登校時刻の8:20以降では厳しい状況。頼れる家族もなく、現在は自力で電車通学のため、ゆっくり徒歩で南高田駅から10～15分で到着してしまうため毎日利用させていただいております。先生方のボランティアとは知らずこれからも利用させていただくしかなくとても肩身がせまいです。8:20前の登校でも各児童生徒に合わせて教室で待機というのは難しいのでしょうか。よいアイデアが浮かばずすみません。登校時刻が8:15に早めることはできないのかと思ってしまいます。高																

■個性豊かな「花のれん」～小学部低学年の作品～



- ・小学部の低学年が作成した「花のれん」をいただき、校長室の入り口に飾ってみました（左写真）。
- ・先生方や来校された方々から、「すてきですね」「子どもたちの作品ですか？ いいですね」などと言っていただいています。とてもうれしくなります。
- ・子どもたちが作成したもの一つ一つには作り手の個性が映し出されると思います。
- ・校舎や寄宿舎を回りながら、殺風景な校長室を彩ってくれる作品に出会えることを楽しみの一つにしながら、各学部の教室や寄宿舎の舎室を回ってみたいと思います。